

## ■ 札幌ふるさとの樹木 ■

### その10：イタヤカエデ(カエデ科)

「イタヤ」は、葉がよく繁って重なり、板葺きの屋根のよう見えるのでこの名が付けられた。その他諸説あり。「カエデ」は葉の形がカエルの手に似ていることから。

日本各地の山林に生える。花期は5月。色は黄緑。花序は散房。葉は互生で掌状に5~7裂、裂片の先はとがる。果実は無毛で、長さ1.5cm、幅0.7cmの翼が鋭角に開く。秋には黄褐色に紅葉する。

材は硬く、各種スポーツ用品に用いられる。含糖量が高くシロップ、タバコの香料にも使われる。



### アカイタヤ (赤板屋)・カエデ科

イタヤカエデの変種。新芽や葉柄が赤みを帯びることから。北海道・本州（東北、北陸、山陰）。山地に普通に見られる。

花期：5月。色は淡黄。葉はふつう浅く5裂、長い葉柄がある。葉の切れ込みが浅い。用途はイタヤカエデに同じ。



(道林業技士会)